

会 議 名	第2回港区広聴システムの再構築に係るシステム開発業務業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和7年10月8日（水曜日）
開催場所	—
委 員	水野 浩孝 東海大学情報通信学部非常勤講師（委員長） 荒川 正行 港区企画経営部長（副委員長） 久賀谷 郁夫 東京都デジタルサービス局 DX 協働事業部 区市町村 DX 協働課長（委員） 桜井 安名 特別区人事・厚生事務組合総務部情報政策推進課長（委員） 相川 留美子 港区企画経営部企画課長（委員） 菊池 太佑 港区企画経営部情報政策課長（委員） 小笹 美由紀 港区高輪地区総合支所管理課長（委員）
事 務 局	企画経営部区長室広聴担当
会議次第	【書面開催】 1 第一次選考結果について 2 第二次選考について
配付資料	資料1 港区広聴システムの再構築に係るシステム開発業務委託事業候補者選考一次審査集計結果 資料2 第3回選考委員会スケジュール（案） 資料3 二次審査留意事項（案）
会議の内容	
委員 I	<p>【1 第一次選考結果について】</p> <p><A事業者についての講評></p> <p>画面イメージも含め詳細に提案されている。また、パッケージシステムであることについて、安定性を評価できる。</p> <p>パッケージのシステムを活用することで、工期や職員負担を軽減できる点は評価できる。また、現時点で実現が困難な項目に対するフォロー体制も評価する。</p> <p>機能性、操作性、セキュリティ対策は必要要件を十分に満たしていると思われるが、デザイン性については提案書で判断がつかなかったため、評価が低くなった。また、グループウェアとの連携や AI データ分析などの追加提案は興味深い。</p> <p>直感的に操作が可能な視認性の高さや、回答支援機能、公表支援機能、未回答の案件に対するリマインドメール機能などは職員の負担軽減に寄与するものと思われる。</p> <p>全体を通じて、各提案が仕様書のどこに対応しているか記載されていた</p>
委員 II	

	<p>め、審査がしやすかった。</p>
委員Ⅲ	<p>全体として、丁寧かつ詳しく記述されている提案内容であることを評価する。</p> <p>広聴システム向けの自社パッケージを保有されており、これまでも多くの自治体での適用実績があることが評価できる。</p> <p>このパッケージをベースとしてシステム開発を行うことで、短期間で効率良く開発できるものと大いに期待できる。</p> <p>反面、港区の広聴システムとしての独自色をどの程度盛り込んでいけるのかが不明瞭であるように思った。また、A Iなどの先端技術の取り込みなどの提案が弱いように見受けられた。</p>
委員Ⅳ	<p>詳細な記述に加え、追加提案がなされていることが評価できる。提案内容についての実現可能性が気になる点である。</p>
委員Ⅴ	<p>パッケージ製品として広聴システムを扱っている事業者であることが伺え、保守やシステムの安定稼働という面では、評価できるが、機能の拡張性や生成A Iの活用など、業務効率化等への寄与がみえてこない。</p> <p>打ち合わせ時は、独自のポータルシステムを利用するなど、セキュリティ意識の高さは伺える。</p>
委員Ⅵ	<p>パッケージ標準として広聴業務に必要な多くの機能があり、それを活かすことで一連の業務が遂行可能と思われる。他方で、U Iや操作性がそこまで優れているのかは判然としないところがある。</p>
委員Ⅶ	<p>他自治体も含め、これまでの実績があるという点が強みであると考える。</p>
委員Ⅰ	<p>< B事業者についての講評></p> <p>生成A Iを活用した職員負担の軽減という点に期待できる。システムのレイアウトや操作性がどのようになるだろうかと思っている。</p>
委員Ⅱ	<p>業務担当の業務歴がない点、この間の実績に広聴システムに類するものがなかった点が不安要素となり、評価が低くなった。</p> <p>システムの構成要件については触れられているが、操作性、機能性に関する記述がなく、低い評価とした。</p> <p>保守運用、研修体制も必要最低限の記述のみで物足りなさを感じた。</p> <p>全体を通じて提案書の内容が薄く、熱意を感じ取れなかった。</p>

委員Ⅲ	<p>開発プラットフォームを活用してのシステム開発の実績は豊富であるようだが、自治体の広聴システムの開発実績はほぼ無いようで、この点に不安を覚えた。</p> <p>また、実績あるパッケージをベースとしたシステム開発と比較すれば、いくらローコード開発とはいってもシステム開発の工数や品質確保の点では不利なのではないかと想像する。</p> <p>一方で、独自色のある機能やユーザインタフェース、あるいは先進技術の導入などについての自由度は高められるかもしれない。</p>
委員Ⅳ	<p>他システムとの連動性が高い点を評価できる。システムの具体的なイメージを確認したいと思った。</p>
委員Ⅴ	<p>広聴の業務フローを踏まえた機能は備えていることに加え、A I を駆使した業務効率化も期待できる点は評価できる。また将来的な拡張の幅も伺える。一方で保守や運用支援については、必要最低限の印象である。</p>
委員Ⅵ	<p>PowerPlatform で構築していく趣旨は理解するし、その方が拡張性・柔軟性は高いと考えるが、広聴業務を遺漏なく処理できるのか具体性に欠ける。</p>
委員Ⅶ	<p>広聴システムを利用する立場として、初めて操作する人でも直感的に操作できればよいと思う。</p>
委員Ⅰ	<p><点差の確認及び採点表の修正について></p> <p>B事業者「2（3）ウ 追加提案」の項目を「4」（16点）と評価した理由は、PowerBI や Copilot など、区で実装しているシステムを活用した提案内容の実現可能性が高いと評価したため。点数は修正しない。</p>
委員Ⅲ	<p>B事業者「2（2）イ デザイン」の項目を「4」（8点）と評価した理由は、A事業者も「4」（8点）と評価しており、両者の間でそれほどの優劣差を感じなかったため。</p> <p>A事業者、B事業者ともに、「3」（6点）に変更する。</p>
委員Ⅴ	<p>B事業者「2（3）ウ 追加提案」の項目を「4」と評価した理由は、各種ツールを追加した上で、機能の拡張を図っていく提案は魅力的だが、実際に職員がどこまで使いのか、使いこなせるのかが未知数。PowerBI などは、使いこなすためにそれなりの知識や技術が必要であり、また、職員側のスキルを前提としている可能性もあり、提案内容からはそのあたりが読み取れなかったため、点数を「3」（12点）に変更する。</p>

委員Ⅵ	<p>B事業者「2（2）イ デザイン」の項目を「1」と評価した理由は、画面遷移のイメージが提案書内にほとんど見受けられず、一般的な内容で判然としないと思われたため。</p> <p>また、B事業者「2（3）ウ 追加提案」の項目を「1」と評価した。追加提案については、事項として見受けられなかったかと思ったが、柔軟性・拡張性の項の部分が、Microsoft の機能を活用した追加提案と判断できるものなので、点数を「3」（12点）に変更する。</p>
事務局	<p>A事業者の第一次審査の合計点は、事務局採点項目の合計点が630点満点中574点、委員採点項目の合計点が1,470点満点中1,004点、加点項目の評価が160点満点中0点で、合計2,260点満点中1,578点です。2,260点満点の最低基準ラインの60%は1,356点であるため、A事業者は選考通過が認められることとなる。</p> <p>B事業者の第一次審査の合計点は、事務局採点項目の合計点が630点満点中567点、委員採点項目の合計点が1,470点満点中910点、加点項目の評価が160点満点中32点で、合計2,260点満点中1,509点です。2,260点満点の最低基準ラインの60%は1,356点であるため、B事業者は選考通過が認められることとなる。</p>
委員全員	（異議なし）
委員長	A事業者及びB事業者を第一次選考通過事業者として確定。
委員全員	<p>【2 第二次選考について】</p> <p>（質問等なし）</p>
委員長	案のとおり承諾。